
スマホでアクティブラーニングを可能にする「respon(レスポん)」を専修大学が導入
～出席管理をはじめ、双方向コミュニケーションによる全員参加の授業を実現～

株式会社朝日ネット（東証一部、本社：東京都中央区、代表取締役社長：土方次郎）は、アクティブラーニング形式の授業を容易に実現できる多人数型オンラインアンケートアプリ「respon(レスポん)」を専修大学（東京都千代田区）に導入しました。respon は同校のような数万人単位の大規模校を含む30の大学ですでに活用されています。



専修大学 生田キャンパス（神奈川県川崎市）

respon は専用のデバイスや機材を購入することなく、学生が自分のスマートフォン（スマホ）に無料アプリをダウンロードするだけで使えるコミュニケーションツールです。教員が授業中に発する質問に対して、学生はスマホを使って回答を選択したり、自分の意見を入力したりして送信することで、その集計結果が即座にグラフ化され、教室内の全学生がリアルタイムに回答結果や他学生の意見などを手元のスマホで閲覧することができます。

専修大学では、かねてより、一方向の講義形式から、学生も積極的に授業に参加するアクティブラーニングへの転換を推進しており、そのための校舎を建設、必要となるシステムの導入を検討していました。専用デバイスが多量に必要なクリックカーや、大規模な投資となる教室へのカードリーダーシステムと比べて、低コストかつ準備期間が短く、しかも、LMS（ラーニング・マネジメント・システム）とは別に単体での運用も可能なrespon に教育関連の展示会で出会い、導入を決めました。

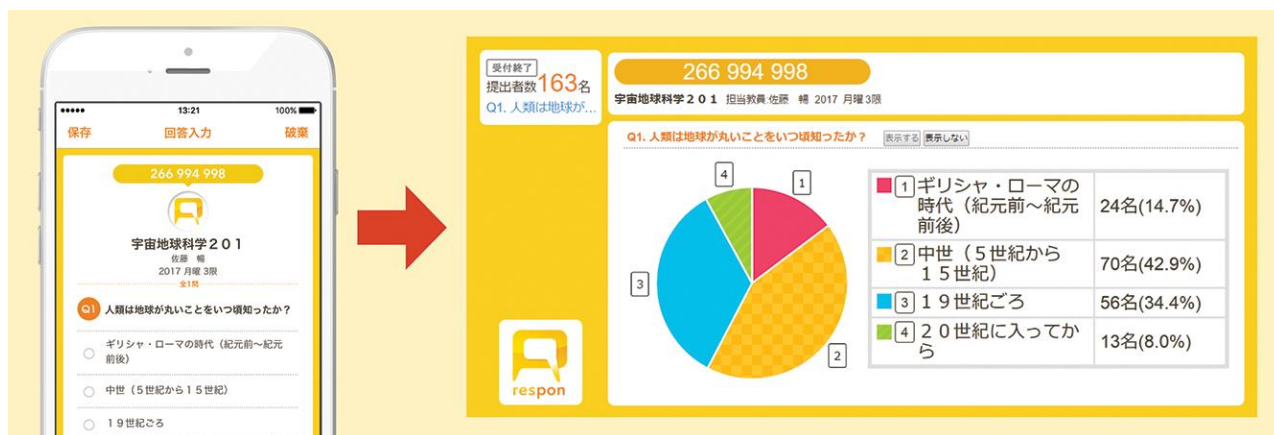


専修大学 佐々木重人 学長

「respon の導入を決めた最大の理由は、学生のスマホを端末として使えることです。スマホは学生の生活必需品なのですぐに使いこなせます。従来型の授業では、教員の質問に対して手を挙げて発表することはハードルが高いものでしたが、respon ならスマホに入力するだけで、SNS へ投稿する感覚で自分の意見が発表できます。本学のアクティブラーニングは試行錯誤の段階にあるので、respon の導入により、まずは自由

にコミュニケーションできる環境を創り上げる第一歩を踏み出すことができたと思っています」と、同大学の佐々木重人学長は respon 導入の意義を語ります。

respon を活用した実際の授業の例として、最初にクイズに答えてもらい、そこで興味を惹きつけて授業の中身へ誘導していくという利用が挙げられます。この時、学生が問題の回答を respon で送信すること自体が出席確認を兼ねるので、これまでのように、出席カードを配って、記入させて、回収するという無駄な時間と手間が不要となり、90 分間の授業時間を最大限に活用できるというメリットも生まれました。



授業中に教員が質問を出すと、学生はスマホで回答しその集計結果が即座にグラフとなって全員に共有される

「専修大学は創立以来、社会に貢献できる人材の育成を図ってきましたが、そのために最も大切なものはコミュニケーション力です。その意味でも、今までの一方向の授業形態を双方向のアクティブラーニングに変える respon は、まさにコミュニケーション力を育む救世主になってくれるものと大きな期待を寄せています」 (佐々木学長)

朝日ネットはスマホ世代のコミュニケーションツール respon を、アクティブラーニングを実現するツールとして、大学・教育機関への販売を進めています。

● 報道機関等からのお問合せ先

株式会社朝日ネット 経営企画室

電話：03-3541-8311

メール：support@respon.jp

● respon ホームページ (学校・教育機関向け)

<https://respon.jp>

● respon ホームページ (企業・一般向け)

<https://respon.jp/biz>



教育 IT ソリューション EXPO 2017

朝日ネットブース [4-16]

5/17 (水) 11:10 ~

5/18 (木) 14:10 ~

5/19 (金) 11:10 ~、および 14:10 ~

にて respon のミニセミナーを実施!